



© Yuki Nakase

“GIRLS: We'll be glad when you're dead you rascal you” (l. viii) at the final dress rehearsal

## Bullets Over Broadway: the Musical

ブロードウェイ劇場では、どのようにミュージカル照明が制作されるのか。今年の4月10日に、St. James Theatreでワールド・プレミアの初日を迎えた、Bullets Over Broadway: the Musical『ブロードウェイと銃弾』を例にあげて、その特徴を考察したいと思います。

照明デザイナーは、ミュージカル『The Lion King』のデザインでトニー賞ミュージカル照明デザイン賞を受賞したDonald Holder氏です。Holder氏の右腕達はアソシエイト照明デザイナーのCarolyn Wong氏、ムービングライト・オペレーターのRichie Tyndall氏、プロダクション・エレクトリシヤンのRandy Zaibek氏で、彼らはこれまでも『Spiderman: Turn Off the Dark』や『Annie』などHolder氏と幾度も一緒に仕事をしている敏腕照明家たちです。2013年11月に照明図面が完成し、同年12月から約1か月の器材準備期間を経て2014年の1月中旬に搬入と仕込みが始まりました。フォーカスは2月5日からでしたが、美術の仕込みと同時進行だったため待ち時間を含めほぼすべての一般照明をフォーカスするのに約1週間かかり、その後4日間のドライ・テックを終え3週間のテックが始まったのは2月18日でした。

ETCソースフォーなど約330台の一般照明と約80台のカラー・チェンジャーはETCのEOSで調光され、約70台のLED照明とClay Paky Alpha

Profile 700やVL2500とVL3500を含む約70台のムービングライトはPRGのV476で操作されました。Bullets Over Broadway: the Musicalにおける照明デザインの最大の特徴は、サスとシーリングに仕込まれたムービングライトがフォロースポットのような役割を担う発想です。たとえば、ダンサー5人舞台上がっているときは3台のLycian 3kw Xenon1293フォロースポットと2台のシーリングのムービングライトがダンサーたちを照らします。また役者が上手から下手に動くような場面では、上手にフォーカスしていたムービングライトがフェードアウトし、下手の立ち位置にフォーカスしているムービングライトがフェードインします。このようにダンサーと役者の動きに合わせて1台1台ムービングライトを操作することにより、約2時間半のミュージカルの照明キューは800以上となりました。

800の照明キューと美術、衣裳、振付と演出のすべてを一体化させるのに、3週間のテックは非常に短く感じました。私が一番尊敬の念を置いたのは、数々のトラブルを1つずつ解決し800のキューの打ち込みを見事に成立させたTyndall氏と、彼を信頼し自身の発想の実現を追求したHolder氏の精神力です。ブロードウェイ・ミュージカルの照明デザインは、ただ単純にほかの制作に比べて予算が多くあるだけでなく、予算(時間)を最大限に利用して演出家の意図を実現する感性と技術と忍耐力と信頼関係の集大成でした。